

2020年6月 今月のトピック

# 『投信ランキング～コロナショック編～（速報）』

アナリスト 瀬山 太郎

2020年6月24日作成

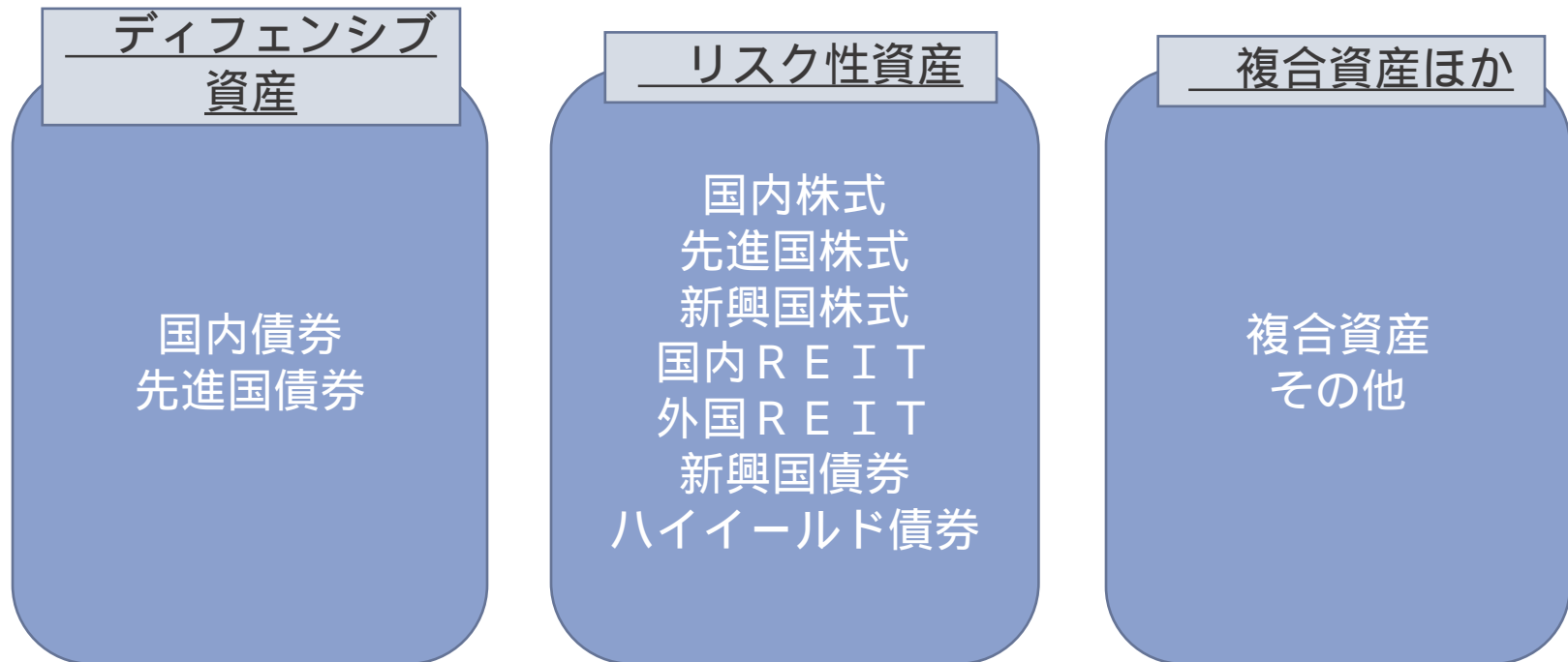
コロナショック前後において際立ったリターンとなったファンドを確認する。

## 『ポイント』

- | 新型コロナウイルスの影響により金融市場が大きく変動した4ヵ月間（2月～5月）について、以下の視点でランキングを行い、上位ファンドを抽出した。
  - ・最も下落の大きかったファンド、小さかったファンド
  - ・下落からの戻りが大きかったファンド
  - ・4ヵ月間で最も上昇したファンド
- | 国内債券や先進国債券などの比較的ディフェンシブな資産に投資するファンドでは、保有する債券種別の違いによってリターンの格差が大きいことが確認された。
- | 一方で、リスク性資産や複合資産などでは、独自の商品性によって際立った上昇（下落）となったファンドも多くみられた。

## ■ランキングのカテゴリ

ランキングの作成にあたり、11のカテゴリを以下①～③に分類することとした。



対象ファンドは、ETF、DC専用、SMA専用、公社債投信、単位型、ブルベア型、通貨選択型、コモディティ等を除く公募投信  
分配コース違いや実質的な投資対象が同一のファンドは残高の大きい方、ヘッジ有無違いは順位の高い方のみを抽出

## ■ランキングの指標

次に、前頁の3つの分類それぞれについて、以下の指標を用いて実績が際立った銘柄を確認した。

### 最大下落率

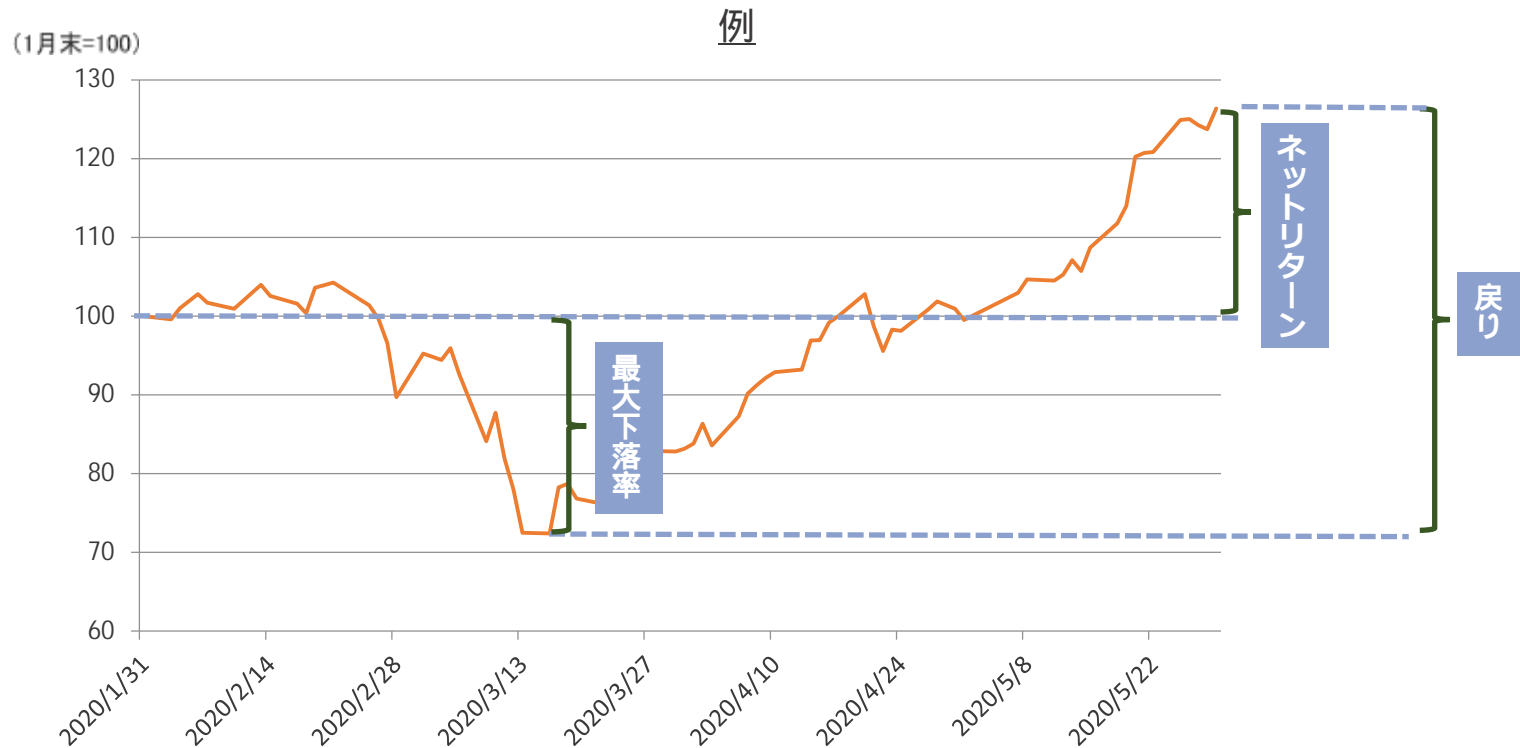
1月末から最も下落した日までのリターン

### 戻り

最大下落率の絶対値 + ネットリターン

### ネットリターン

1月末から5月末のリターン



例示は「D I A M新興市場日本株ファンド」

# ①ディフェンシブ資産

国内債券  
先進国債券

## ■どんなファンドが大きく下落したか/下落しなかったか

まず、最大下落率の大きかった/小さかったファンドを確認する。

ファンド名	運用会社名	カテゴリ	最大下落率	戻り	ネットリターン
パインブリッジ米国優先証券ファンド(ラストリゾート(最後の楽園))	パインブリッジ	先進国債券	-26.8%	20.6%	-6.2%
パインブリッジ・キャピタル証券ファンド(為替ヘッジなし)	パインブリッジ	先進国債券	-26.4%	18.7%	-7.7%
グローバルC o C o 債ファンド円ヘッジコース	日興	先進国債券	-22.9%	18.7%	-4.2%
欧州バンクローン・オープン(為替ヘッジあり)	三井住友D S	先進国債券	-22.8%	10.7%	-12.1%
ノルディック社債ファンド為替ヘッジなし	野村	先進国債券	-22.0%	9.0%	-13.0%
ダイワ米国国債ファンド - ラダー10 - (為替ヘッジあり)	大和	先進国債券	-0.4%	4.4%	3.9%
D I A M毎月分配債券ファンド(円パワーズ)	A M-O n e	国内債券	-0.3%	1.0%	0.8%
D I A M円ストラテジー債券ファンド(円クルーズ)	A M-O n e	先進国債券	-0.2%	1.8%	1.6%
リビング・アース戦略ファンド(年2回決算コース)	T & D	先進国債券	-0.1%	0.5%	0.4%
日本公共債ファンド2020(ふるさと紀行)	日興	国内債券	-0.1%	0.0%	-0.1%

- 優先証券やCoCo債など、資本性の高い債券(ハイブリッド証券)に投資するファンドが最も下落した。クレジットリスクが急速に意識され、スプレッドが一時的に急拡大したためである。
- 一方で長期金利の上昇は限られたため、国内債券や高格付け債券に投資するファンドの下落率は低い。
- 最大下落率の大きかったファンドのネットリターンは依然マイナスであるが、下落の小さかったファンドは小幅ながらも5本中4本がプラスとなっている。

## ■戻りが大きかったファンドは？

次に、最大下落率からの戻りが大きい順にランキングした。

ファンド名	運用会社名	カテゴリ	最大下落率	戻り	ネットリターン
パインブリッジ米国優先証券ファンド(ラストリゾート(最後の楽園))	パインブリッジ	先進国債券	-26.8%	20.6%	-6.2%
パインブリッジ・キャピタル証券ファンド(為替ヘッジあり)	パインブリッジ	先進国債券	-25.5%	19.1%	-6.4%
グローバルC o C o債ファンド円ヘッジコース	日興	先進国債券	-22.9%	18.7%	-4.2%
三菱UFJ / AMPグローバル・インフラ債券ファンド<為替ヘッジあり>(毎月決算型)(世界のいしずえ)	三菱UFJ国際	先進国債券	-17.7%	15.2%	-2.4%
野村豪ドル債オープン・プレミアム毎月分配型	野村	先進国債券	-17.1%	15.0%	-2.1%

- 下落率の大きかったハイブリッド証券は、戻りも最も大きくなった。FRB等の大規模な金融政策や各国政府の財政政策によって、流動性不安やデフォルトリスクが後退したためである。
- ただし、ネットリターンはいずれもマイナスであり、1月末水準を依然として下回っている。政策期待は買戻しの材料にはなったものの、クレジットリスクの高まりを完全に払しょくするには至らなかった。

## ■4か月間で最も上昇したのは？

最後に、4か月間で最も上昇したファンドを確認する。

ファンド名	運用会社名	カテゴリ	最大下落率	戻り	ネットリターン
ダイワ米国国債7 - 10年ラダー型ファンド(部分為替ヘッジあり) - USトライアングル -	大和	先進国債券	-0.5%	6.9%	6.4%
米国国債ファンド為替ヘッジあり(年1回決算型)	大和	先進国債券	-0.6%	6.5%	5.8%
三菱UFJグローバル・ボンド・オープン(毎月決算型)(花こよみ)	三菱UFJ国際	先進国債券	-2.3%	7.0%	4.7%
USストラテジック・インカム・アルファ毎月決算型	AM-One	先進国債券	-4.0%	8.3%	4.2%
三菱UFJ米国債券オープン(毎月分配型)	三菱UFJ国際	先進国債券	-1.0%	5.2%	4.1%

- 米国国債ファンドが3本ランクインした。
  - 大規模な金融緩和政策を背景に米国金利が大きく低下し、長期国債や高格付債のウエイトが大きいファンドのリターンは良好となった。
- ✓ 「ディフェンシブ資産」のランキングでは、保有する債券種別の違いにより上昇・下落の格差が相応に大きいことが確認された。



## ②リスク性資産

国内株式  
先進国株式  
新興国株式  
国内REIT  
外国REIT  
新興国債券  
ハイイールド債券

## ■どんなファンドが大きく下落したか/下落しなかったか

まず、最大下落率の大きかった/小さかったファンドを確認する。

ファンド名	運用会社名	カテゴリ	最大下落率	戻り	ネットリターン
米国エネルギーMLPオープン(毎月決算型)為替ヘッジなし(エネルギー・ラッシュ)	三菱UFJ国際	先進国株式	-64.0%	38.1%	-26.0%
米国MLPファンド(毎月分配型)Bコース(円ヘッジなし)(THEMLPB)	ドイツェ	先進国株式	-63.7%	32.9%	-30.9%
米国エネルギー・ハイインカム・ファンド(エネハイ)	リクソー	先進国株式	-62.4%	32.2%	-30.2%
米国エネルギー革命関連ファンドBコース(為替ヘッジなし)(エネルギーレボリューション)	野村	先進国株式	-61.4%	34.9%	-26.5%
インデックスファンドMLP(毎月分配型)	日興	先進国株式	-58.6%	34.0%	-24.5%
BNYメロン・日本中小型株式ダイナミック戦略ファンド(風神雷神)	BNYメロン	国内株式	-5.0%	18.8%	13.8%
BNYメロン・日本株式ダイナミック戦略ファンド(臨機応変)	BNYメロン	国内株式	-4.3%	13.4%	9.1%
中国人民元ソブリンオープン(夢元)	岡三	新興国債券	-4.1%	1.5%	-2.6%
BNYメロン・米国株式ダイナミック戦略ファンド(亜米利加)	BNYメロン	先進国株式	-3.1%	8.5%	5.4%
テトラ・エクイティ	三井住友DS	先進国株式	-1.6%	35.4%	33.7%

- 上位5本すべてがMLPに投資するファンド。原油価格の急落に伴い最大で6割以上下落した。5月末現在では半値以上を戻しているものの、ネットリターンとしては依然大きくマイナスとなっている。
- 一方、最大下落率の小さかったファンドには、BNYメロンの「ダイナミック戦略ファンド」3本と、「テトラエクイティ」がランクイン。いずれも相場の局面判断によっては先物の売建を行うファンドで、この戦略が奏功しネットリターンもプラスとなった。

## ■戻りが大きかったファンドは？

次に、最大下落率からの戻りが大きい順にランキングした。

ファンド名	運用会社名	カテゴリー	最大下落率	戻り	ネットリターン
DIAM新興市場日本株ファンド	AM-One	国内株式	-27.6%	54.0%	26.4%
グローバル・プロスペクティブ・ファンド(イノベティブ・フューチャー)	日興	先進国株式	-34.5%	48.0%	13.5%
厳選ジャパン	AM-One	国内株式	-33.7%	47.2%	13.5%
米国IPOニューステージ・ファンド<為替ヘッジあり>(資産成長型)	三菱UFJ国際	先進国株式	-35.2%	46.7%	11.4%
企業価値成長小型株ファンド(眼力)	AM-One	国内株式	-29.6%	44.7%	15.1%

- 2位の「グローバル・プロスペクティブ・ファンド」を除いて、すべて小型株に投資しているファンドである。中でも「DIAM新興市場日本株ファンド」の戻り、リターンが突出しているが、5月末現在買付停止中である。
- いずれのファンドも、ネットリターンは1割以上のプラスとなっている。社会構造の変化によって強みを発揮する、「ウイズコロナ関連」などともいわれる銘柄群に投資をしていたことで良好なリターンを獲得したものと考えられる。

## ■4カ月間で最も上昇したのは？

最後に、4カ月間で最も上昇したファンド(ネットリターン)を確認する。

ファンド名	運用会社名	カテゴリ	最大下落率	戻り	ネットリターン
テトラ・エクイティ	三井住友D S	先進国株式	-1.6%	35.4%	33.7%
D I A M新興市場日本株ファンド	A M-O n e	国内株式	-27.6%	54.0%	26.4%
ブラックロック・ゴールド・メタル・オープンAコース	ブラックロック・ ジャパン	先進国株式	-21.4%	44.6%	23.2%
グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)	日興	先進国株式	-24.8%	43.6%	18.9%
世界スタートアップ&イノベーション株式ファンド	三井住友トラスト	先進国株式	-24.7%	43.1%	18.3%

- 最大下落率が最も低かった「テトラ・エクイティ」がネットリターン1位、下落からの戻りが最も大きかった「DIA M新興市場日本株ファンド」が2位となった。
- 3位から5位は、金、バイオ、スタートアップと、それぞれ全く異なるテーマ株式ファンドがランクインしている。金は、米金利の低下により相対的に魅力度が上昇し、2012年ぶりに高値を更新。金鉱企業の株式に投資する「ゴールドメタル」(3位)には大きく追い風となった。
- 「テトラ・エクイティ」を除く4ファンドは、最大下落率も相応に大きい。戻りがこれを大きく上回ったことでネットリターン上位となっている。
- ✓ 「リスク性資産」のランキングでは、特定のテーマや先物の売建を活用するファンドを中心に、先進国および国内株式ファンドが存在感を発揮した。

## ③複合資産ほか

複合資産  
その他

## ■どんなファンドが大きく下落したか/下落しなかったか

まず、最大下落率の大きかった/小さかったファンドを確認する。

ファンド名	運用会社名	カテゴリ	最大下落率	戻り	ネットリターン
ダイワ米国リート・プラス(毎月分配型)為替ヘッジなし	大和	複合資産	-48.0%	23.7%	-24.3%
BNPパリバ・ブラジル・ファンド(バランス型)	BNPパリバ	複合資産	-39.4%	10.2%	-29.1%
エマージング・プラス・成長戦略コース	日興	複合資産	-36.9%	13.0%	-23.9%
ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス<ヘッジなし>	AM-One	複合資産	-36.1%	22.7%	-13.4%
グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	日興	複合資産	-35.0%	21.4%	-13.6%
スパークス・ベスト・ピック・ファンド(ヘッジ型)	スパークス	その他	-0.8%	6.5%	5.6%
MHAMライフナビゲーション2020(ライフナビ2020)	AM-One	複合資産	-0.7%	0.1%	-0.6%
マクロ・トータル・リターン・ファンド	三菱UFJ国際	その他	-0.3%	2.6%	2.2%
ほくよう資産形成応援ファンド(ほくよう未来への翼)	ちばぎん	複合資産	-0.3%	1.2%	0.9%
あい・パワーファンド(iパワー)	あいグローバル	その他	-0.0%	1.3%	1.3%

- 最大下落率1位の「米国リート・プラス」、4位の「ダブルライン」、5位の「グロ3」はいずれも実質的に投資金額の100%を超えて投資する、「レババラ型」であった。コロナショック下ではすべての資産が売られる局面があったため、一時的に分散メリットが失われ、最大下落率は大きくなった。
- 前出2分類と同様、下落上位はネットリターンでもマイナスであるが、下落が小さかったファンドは5本中4本がプラスのリターンとなった。うち3本は、株価指数先物や通貨の売建を活用している。



## ■戻りが大きかったファンドは？

次に、最大下落率からの戻りが大きい順にランキングした。

ファンド名	運用会社名	カテゴリ	最大下落率	戻り	ネットリターン
楽天・米国レバレッジバランス・ファンド(USA360)	楽天	複合資産	-21.0%	25.5%	4.5%
ダイワ米国リート・プラス(毎月分配型)為替ヘッジあり	大和	複合資産	-47.3%	25.3%	-22.0%
ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス<為替ヘッジなし>	AM-One	複合資産	-36.1%	22.7%	-13.4%
米国分散投資戦略ファンド(5倍コース)(USブレイン5)	三井住友DS	その他	-13.5%	21.7%	8.2%
グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	日興	複合資産	-35.0%	21.4%	-13.6%

- 上位5ファンドすべてが「レババラ型」となった。
- 5ファンドはそれぞれ組入資産やその比率、実質的な投資相当額が異なっており、最大下落率やネットリターンも明暗が分かれている。
- 「USブレイン5」(4位)や「USA360」(1位)は、パフォーマンスが良好だった米国国債への実質投資比率が高いため、他の3ファンドや前頁の下落率上位ファンドと比べると下落が抑制された。その後の回復局面で米国株式の戻りを取ることもでき、ネットリターンがプラスとなった。
- 一方で、REITの組入が大きい「米国リート・プラス」(2位)のネットリターンは大きくマイナスとなっている。

## ■4カ月間で最も上昇したのは？

最後に、4カ月間で最も上昇したファンドを確認する。

ファンド名	運用会社名	カテゴリ	最大下落率	戻り	ネットリターン
米国分散投資戦略ファンド(5倍コース)(USブレイン5)	三井住友DS	その他	-13.5%	21.7%	8.2%
スパークス・ベスト・ピック・ファンド(ヘッジ型)	スパークス	その他	-0.8%	6.5%	5.6%
日本株ロングショート戦略ファンド(いつつぼし)	ファイブスター	その他	-13.6%	19.1%	5.5%
米国分散投資戦略ファンド(3倍コース)(USブレイン3)	三井住友DS	その他	-8.5%	13.2%	4.8%
楽天・米国レバレッジバランス・ファンド(USA360)	楽天	複合資産	-21.0%	25.5%	4.5%

- 1位、4位、5位の3ファンドは、下落からの戻り上位にも顔を出した「レババラ型」となった。
- 一方、2位の「ベスト・ピック」と「いつつぼし」は、それぞれ運用手法が異なるものの、いずれも日本株で絶対収益の獲得を目指すファンドである。「ベスト・ピック」は最大下落率の小ささでも上位であった。
- ✓ 「複合資産ほか」にランクインしたファンドは、独自の手法や資産配分で運用されていることが特徴。したがって、コロナショック下のネットリターンが同じくらいのファンド同士でも、違う期間では全く別の動きとなる、といったことが単資産ファンドよりも起こりやすい点には注意が必要である。



## ■まとめ

### 【最大下落率とネットリターン】

- ◆ 最大下落率が上位となったファンドは、下値からは相応に戻ってきたものの、いずれの分類でもすべてネットリターンはマイナスで、1月末水準を回復するまでには至っていない。
- ◆ 一方で、最大下落率が特に小さかったファンドは、ネットリターンがプラスとなったファンドが多い。なかでも、「リスク性資産」や「複合資産ほか」では、株式先物等の売建を含んだ戦略を取っているファンドのプラスリターンが目立った。

### 【戻り上位とネットリターン】

- ◆ 下落からの戻りが特に大きかったファンドのネットリターンは、「ディフェンシブ資産」ではマイナスにとどまったが、「リスク性資産」では大きくプラスになり、明暗が分かれた。
- ◆ 「ディフェンシブ資産」の戻り上位は政策決定を受けた単なる買戻しという側面が強かった一方で、「リスク性資産」の戻り上位はコロナショック前後における社会構造の変化を織り込んでいった結果とも推察される。

## ■最後に

- ◆ コロナショック下におけるリターンや最大下落率にはファンドの特徴が大きく表れているため、ファンド選定の際の参考情報として有用である。
- ◆ 一方、短期の実績だけではファンドの良し悪しは測れない。商品性や長期のリスクリターンをよく確認したうえで投資行動をとることが肝要である。

- Ⅰ 本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
- Ⅰ 本レポートは、MABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の真実性・正確性をMABにて調査・確認したものではありません。
- Ⅰ MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
- Ⅰ 本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- Ⅰ 本レポートは、情報提供を目的としたものであり、投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。
- Ⅰ MAB投信指数「MAB-FPI」(以下、本指数)に関する著作権、知的財産権等一切の権利はMABに帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。また、本指数を商業的に利用する場合にはMABの利用許諾が必要です。

## 【照会先】

三菱アセット・ブレインズ株式会社

アナリストグループ

瀬山・標(しめぎ)・木村・碓

03-6721-1039

analyst@mab.co.jp

〒107-0062

東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館8階

TEL:03-6721-1010 FAX:03-6721-1020

URL <https://www.mab.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1085号

助言・代理業、投資運用業

加入協会名 一般社団法人 日本投資顧問業協会